

梧溪叢書

大崎古城名

完

(18)

大南古藏書

大南古藏書

良定化文書

日本侍好子進拔粹

日本新編...
身要...
大...
...

大峰嶺古城間敷城主名元記

加美郡性生寺村
...

一加味佐持 馬場村...
...

一島屋佐持 口村...
...

一小北國盛 口村...
...

一言相城 口村...
...

一味余城 口村...
...

新次村

山 大楮城 口三十五 山城主多奈七平 一松尾城 口十四 尾城之新次城 口三

谷地村

山 谷地城 口十三 山城主谷地武義

石井村

山 石井城 口二十五 山城主石井右馬三益 一尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

米束村

山 米束城 口十五 山城主米束伊藤口三 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

孫田村

山 孫田城 口二十二 山城主孫田孫田 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

中野村

山 中野城 口十四 山城主中野中野 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

四尾村

山 四尾城 口二十五 山城主四尾四尾 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

上野村

山 上野城 口三十 山城主上野上野 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

平井村

山 平井城 口二十 山城主平井平井 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

玉造村

山 玉造城 口三十 山城主玉造玉造 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

下野村

山 下野城 口三十 山城主下野下野 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

善田村

山 善田城 口三十 山城主善田善田 尾城 口十 尾城 口十 尾城 口十

半沢村

一平津郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

一古川郡 一古川郡 一古川郡 一古川郡

古川郡

漢升村

一石名三塔塔名無名塔三分云及名何年景

漢口村

一塔外四塔四塔一塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

大石塔村

一石名塔四塔塔名無名塔三分云及名何年景

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

漢口村

一塔外塔四塔塔名不知一塔外塔四塔塔名無名塔

上宮村

一 村山崎 四丁 村山崎 村山崎

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

梨法村

一 白旗 四丁 村山崎 村山崎

一 梨法 四丁 村山崎 村山崎

梓田村

一 梓田 四丁 村山崎 村山崎

一 梓田 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

湯村

一 湯 四丁 村山崎 村山崎

一 湯 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

八幡村

一 八幡 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

栗原村

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

一 栗原 四丁 村山崎 村山崎

山 金井村

一 幸丸城 山 城之主 幸丸

大赤木村

一 大赤木城 山 城之主 大赤木

山 沢村

一 沢村城 山 城之主 沢村

一 沢村城 山 城之主 沢村

山 穂花村

一 穂花城 山 城之主 穂花

石鏡村

一 石鏡城 山 城之主 石鏡

一 三田城 山 城之主 三田

一 三田城 山 城之主 三田

山 東井村

一 東井城 山 城之主 東井

一 東井城 山 城之主 東井

山 武井村

一 武井城 山 城之主 武井

小迫村

一 小迫城 山 城之主 小迫

一 深谷城 山 城之主 深谷

一 深谷城 山 城之主 深谷

山 畑村

一 畑村城 山 城之主 畑村

千

一 畑村城 山 城之主 畑村

山 有賀村

一 有賀城 山 城之主 有賀

沢倉村

一 沢倉城 山 城之主 沢倉

山 赤見村

一 赤見城 山 城之主 赤見

一 赤見城 山 城之主 赤見

山 赤見城 山 城之主 赤見

一 赤見城 山 城之主 赤見

山 東井城 山 城之主 東井

一 東井城 山 城之主 東井

一 下佐城 山 城之主 下佐

一 下佐城 山 城之主 下佐

大崎聚名元帳

大崎 原司

氏名三つ守時右

宿元

任本高の守時右中百守春

中村 向城之代目藤下根時信成工物小座屋庄内五郎佐長多徳

玉隆 新石村 敏之 新石村 敏之 新石村 敏之

加美郡 四定村 子守五郎三郎

氏名藤文此門時次

加美郡 付生村 本村 領之 今身領者 同村 物之 三郎 子守五郎 五郎 乃

同身領 向之 三郎 石川 長門 守時 向村 新石村 敏之 小北 向之 三郎

向之 三郎 村 敏之 守時 向村 新石村 敏之 加美 郡 守時 右 乃

同身領 向之 三郎 守時 向村 新石村 敏之 柳 決 保 守時 右 乃

大崎聚名元帳
大崎 原司
氏名三つ守時右
宿元
任本高の守時右中百守春
中村 向城之代目藤下根時信成工物小座屋庄内五郎佐長多徳
玉隆 新石村 敏之 新石村 敏之 新石村 敏之
加美郡 四定村 子守五郎三郎
氏名藤文此門時次
加美郡 付生村 本村 領之 今身領者 同村 物之 三郎 子守五郎 五郎 乃
同身領 向之 三郎 石川 長門 守時 向村 新石村 敏之 小北 向之 三郎
向之 三郎 村 敏之 守時 向村 新石村 敏之 加美 郡 守時 右 乃
同身領 向之 三郎 守時 向村 新石村 敏之 柳 決 保 守時 右 乃

伊勢郡志 卷之四 田代郡村誌
志高郡村誌
志高郡中田代村誌
志高郡保所村誌
保所寺
志高郡山代村誌
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌

志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺
志高郡山代寺

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌

田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌
田代郡村誌



葛西忠盛大將信讀水三進衆

重時、心守、能者、傷る、小北、も、置、成、入、乃、有、勢、可、成、小、北、也、
二階、若、は、越、全、成、也、越、於、水、高、千、無、勢、居、不、成、乃、
千、無、勢、乃、夫、陸、將、推、乃、全、頭、大、和、汝、能、也、切、對、可、
信、為、之、山、沼、乃、成、乃、汝、全、也、越、小、北、也、入、年、

同、是、也、
明、治、三、十、七、年、五、月、八、日、家、在、大、地、左、云、將、針、身、七、十、の、
也、

真山孫河書家

い、せ、く、と、う、ら、ひ、は、甘、も、金、也、の、あ、り、の、う、い、く、ち、あ、し、を、十、
ね、ま、ん、そ、く、と、さ、く、あ、く、し、く、あ、く、し、く、あ、く、し、く、あ、く、し、く、
と、れ、ま、の、後、も、う、と、あ、い、る、を、ん、を、そ、い、さ、ま、く、の、あ、り、
う、し、し、と、く、は、あ、ま、り、い、を、さ、ろ、し、し、と、く、と、あ、て、
の、あ、り、う、し、し、ち、あ、ま、り、と、ま、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、
と、あ、く、す、く、い、ん、を、さ、ろ、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、
と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、
め、ら、う、う、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、
と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、し、し、と、く、

五月朔日
改定

良學院

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

宣房八年寅日 竹多田

前鋒廣西
萬一武并
萬一武并
萬一武并
萬一武并

文政三年六月日 竹文白口

伊達家伯
二十志世
格原親臣
萬一武并

文政六年六月日

伊達家伯
二十八世
藤原親臣
萬一武并

天保十年八月日

伊達家伯
萬一武并

良寛伝記(列)日記

一 指二葉三右二移又 身赤髪 延花少右との

一 赤髪三右八移又 身赤髪 延花少右との

一 三右移又又 空城無若河との 一八右移又又 白髪若若河との

一 全右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

一 一右移又又 空城無若河との 一三右移又又 白髪若若河との

全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

全書要文

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

一 石田氏又 常田新島木抄

赤松氏

一 石田氏又 常田新島木抄

福壽寺

一 石田氏又 常田新島木抄

月信信

一 石田氏又 常田新島木抄

後長孫

一 石田氏又 常田新島木抄

大條監物

一 石田氏又 常田新島木抄

寶曆八年七月

中河伊

紫田

古田

平賀

依茂

速成

大條監物

平賀

依茂

速成

依茂

速成

寶曆八年七月

依茂

依茂

泉田大彌

平賀元徳

古田種彦

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀兼成

石田豊前

平賀兼成

後茂孫四郎

福永信成

石田豊前

平賀兼成

和前和泉

六軒兼成

一 天保十三年六月日

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

一 天保十三年八月日

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

六軒兼成

和前和泉

芝多利島

前日

遠方

九月

五

大條照物

水前

草

田

五

天曆十三年八月

本レノ由ニ列日録冬夏伊也三口一...
以事り名元為空也刻と...
天曆十三年八月

上御左衛門尉景木

享和三年七月廿二日

宣旨

大僧都性真

宜轉任大僧都

奉

藏頭

表書

宣案

口

上御管中納言

嘉永二年三月廿六日宣旨

權大僧都諦真

宣轉任大僧都

藏奈辨若衛權經

石本書
宣菜

石二枚彦五七

權大僧都諦真

左少辨藤月朝胤保傳宣

權中納言管原月朝聰長宣奉

勅件人宜轉任大僧都者

奉

上布

嘉永元年丙寅八月修

里

陳春長堂堂元泰規

奉

蘇中内言

大正修海海海

一 柱仔樓律... 可後...

一 柱仔樓律...

一 柱仔樓律...

一 柱仔樓律...

一 柱仔樓律...

一 柱仔樓律...

文政五年十月...

浪平下...

海軍海堂 為

海軍海堂 為

仙卷

妙初院明真

一校任檢少佐兼（名）右移之（名）及前（名）右佐親也（名）

一校任檢律中（名）右佐親也（名）及前（名）右佐親也（名）

仙卷 良受伝佛神（名） 法那法良 為

一校叙法那（名）右佐親也（名）及前（名）右佐親也（名）

一校叙法那（名）右佐親也（名）及前（名）右佐親也（名） 二月十五日

一校叙法那（名）右佐親也（名）及前（名）右佐親也（名） 皇德元年十月十日

皇德元年十月十日

法印被檢 為

良覺院

法印光有



一、奉住持... 二、山莊... 三、山莊...

正德元年七月廿九日

法印濟甫



法印精林

良覺院印真

一、奉住持... 二、山莊... 三、山莊...

正德元年七月廿九日

法印精林



法印精林



岩坊法印移居

良覺院佛堂

一春住佛堂者之年 指為言 識於內入學 似有初學之意 初
不識者 觀其意 亦未可任 合與於此 先評早於上者 以
為百世之師 其意與之 始言公為 師也 三山接後 宜其理氣
也 執正也 以併

寶曆十一年九月廿

法服琴香 丑

法服漆茶 丑

良覺院佛堂

一春住佛堂者之年 雖不為言 固若功若 識補全無 早時而
右 幼志 何早 宜於天下 五年 亦未可任 合與於此 先評早於上者 以
三山接後 宜其理氣 也 執正也 以併

云在壬午年七月二十

法印漆茶 丑

泉州仙雲

法印漆茶

良覺院佛堂

一朱仕修學考：年時有案物狀，多科記亦不字，修考
年名慎，初玉亦考卷，無案前，名依三山務度官最
節紀正也科

法亦深定也

法服抄又

法服抄乙

天保三年三月十日

良芝院印

一朱仕修學考：年時有案物狀，多科記亦不字，修考
年名慎，初玉亦考卷，無案前，名依三山務度官最
節紀正也科

天保七年七月廿五日

良芝院印

法印 祐 祐 祐

一朱仕修學考：年時有案物狀，多科記亦不字，修考
年名慎，初玉亦考卷，無案前，名依三山務度官最
節紀正也科

三山務度官最節紀正也科

法亦深定也

天保六年三月廿七日

法亦深定也

法亦深定也

法華源乙

五

仙堂

良覺院明真

右山色

一木樨色衣三年校先科院社上之公事係有善念故之袖
百公之乃氣多係 而後院空淨光色純正為伴

嘉保十三年八月六日

法華源孫 花神會

良之之倫

一木樨色衣三年校先科院社上之公事係有善念故之袖
百公之乃氣多係 而後院空淨光色純正為伴

法華源孫 花神會

空房三年八月廿日

志壽會為不主理

法棉沐泰前同

法華源孫

五

仙堂

良覺院明真

且一謂其色衣若用之半固是果 勸勞社之件 之云為係
百復院空淨光色純正為伴

法華源孫

法華源孫

法華源孫

文化十一年十二月七日

仙卷

良芝元化大信和性云

先一木蘭色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

蓮花伴

宋和三年六月吉

法平空若一卷

法平空若長 卷

仙卷 良芝元化性云

一頭其色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

西和三年七月吉

仙卷

良芝元化大信和性云

仙卷

一頭其色衣著用一車杖 允科一三信 三山指故定少等七抱

三山指故定少等七抱

法平空若長 卷

法平空若長 卷

法平空若長 卷

卷

仙卷 良芝元化

十八道護摩加行日折

大八道加行日折

前行 喚取一湯又

十月五日 和夜國与會前

十月九日 儀軌傳授

正行 三念誦

四月十五日 和夜國与會

四月十日 法華傳授

護摩加行日折

誦誦 十八箇三時

四月十七日 儀軌傳授

正行 護摩在日 十月十日 和夜國与會

口問護去諸非供儀之

同日諸尊法傳授

如右

大阿闍梨二思雄仁親王示

金剛佛子誦十二

萬壽元年十一月五日

釋迦次等

善喜寺低執回法牙

光明法牙

葉師低執回法牙

草觀寺低執回法牙

十二面低執回法牙

如老神低執回法牙

千手低執回法牙

灌照法牙

白衣法牙

八字之舞低執回法牙

三尊聖障低執回法牙

善喜寺低執回法牙

善喜寺低執回法牙

地三所法牙

於樹法牙

慶深低執 爾相野慶深 三宗同法牙

降三垂法牙

不動低執回法牙

軍荼利低執回法牙

五次尊舍行法

大成低執回法牙

金剛夜叉法牙

手刺王手儀低執回法牙

不知然宅法

孔雀法牙

毘沙門天低執回法牙

手刺虎王法牙

手刺王法牙

妙尼法牙

十二天法牙

二十天法牙

水天法牙

大夏天... 九... 九...

採... 全到供

如右

嘉永五年十一月二十九日



印



右... 印

良覺院

先取... 牙... 凡... 牙... 印

午三月

修驗裁奉



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are small and densely packed.

文政二四年

傳於橋大信於法中白林 百六十六
八月八日 八月六日

傳於橋大信於法中 百九十二
八月十三日 八月十三日

傳於橋大信於法中 百三十八
八月十三日 八月十三日

傳於橋大信於法中 百三十八
八月十三日 八月十三日

傳於橋大信於法中 百三十八
八月十三日 八月十三日

傳於橋大信於法中 百三十八
八月十三日 八月十三日

寶曆十二年六月廿九日
後醍醐天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

三月十九日
三月廿九日

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

石三

十月廿九日

六十五

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

八十四

八月廿九日

八十五

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

八十四

八月廿九日

八十五

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

七十四

十月廿九日

七十五

寶曆十二年六月廿九日
後醍醐天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

六十四

八月廿九日

六十五

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆
奉天天皇御筆

西曆三月一日
天長天皇御筆

延平北牘卷之

二十九 田一朱信情字若大芝色田一十七

叙學以久老字

三十一 一玉果心大芝色陳六 十九

脫心淨堂信士

三十三 乃三十三

以上

文政八十四年

日本時世草紙

平安 大江

橋本六九

右列人件悉大正新編之可也茲錄仙也胡

以上

文政八十四年

日本時政軍運故府 平安 大江雄翰為著

佛本丸

石州人住除大夫善和可世松殿仙也願石浦哥最勝人口

大夫相上夕陽多 既宮

哥仙相上露金改 李筱

大夫高鉢應神助 為卷

大夫高鉢應神助 為卷

即今住石州

大夫湯淵

吾心既

大夫賦

科吟

日本與

大夫

安倍仲麻呂

程遣唐使入唐慕唐不肯去勿姓名曰朝衡故唐人呼其是甄或

脚也嘗在九州作三笠山歌

日本是脚以後篇

日本是脚游異境

日本是脚容異方

日本是脚龍海日

即今唯有朝脚月清影依然御蓋秋

大正文庫

日本書紀

卷之九

今加古原神日家妻御清廣成仁
秘書品式部家車、長城長傳月出若云河

飛揚尾監名廿分

○三葦山頭日出光而郭

三葦山頭如五月清輝應是滿明州 去反

日本書紀卷之九 於三葦山傳
阿保親王等五子也故裝在五中於燈勢、則辰於然不拘善作和歌
娶婦亦通於高安郡平鹿武大後於于東州路姓三河八穗見燕子花作
蘇蘇其入東服路于隸河、將歷宇都土敷租藤原往之夾路、極空狹
不可測也乃復然思鄉、作宇都郡山邊行堅富士山、向五月積雪半消乃
作戀戀望、竟而到、到于武德之文、渡首田川、作白鷺有燕、留贈多人
風流博管在中部、而郭

在原中將兼平

阿保親王等五子也故裝在五中於燈勢、則辰於然不拘善作和歌
娶婦亦通於高安郡平鹿武大後於于東州路姓三河八穗見燕子花作
蘇蘇其入東服路于隸河、將歷宇都土敷租藤原往之夾路、極空狹
不可測也乃復然思鄉、作宇都郡山邊行堅富士山、向五月積雪半消乃
作戀戀望、竟而到、到于武德之文、渡首田川、作白鷺有燕、留贈多人
風流博管在中部、而郭

○高安室中兼重八子傳
千古獨留中郎身早獲

為憶風流在相林生助

神中書錄八十年

相林中將，在公子全

左原開畫箱湘江

○高安堂中有食人

一曰高安堂，在宜州府城內，其地有食人，人食之，則其地有食人，人食之，則其地有食人。
○杜若悠遠，春草色如君，難勝向玉環。翠太長，翠太長，翠太長。
翠太長，翠太長，翠太長。
○杜若洲頭，採服愛，雨都。中興難，中興難，中興難。
中興難，中興難，中興難。

杜若洲邊，客子衣，著山

○燕子在關，到公樓，去聲

三河水曲，八橋通

極服，羅或徒，千古風波，何滅在中，部西新

莫見蒼，身草色，莫按，旅服，衣玉，帶常山

杜若悠遠，水玉，環香，未帶，想來

古

古蓮華將斷王孫不復來

八棉分杜若花入王孫殿

○行令直到碧山中

踏秋蘿深何處道

○芙蓉五月知兒姪

○中郎駐馬欲覺

○時處空兒姪已回頭

○空是西京在中郎

○來舟無視江魚白

○中郎發還莊田

○沙島近人無意

○墨水白濁

○有燕頭向

○也踐行

○自使二枚

○為是王孫

○洲上白鷗

○自看洲島

○棉中郎

○王孫不復

○王孫不可見

○

○

○

○

○

王五不... 王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

王五不...

都良香 日本詩歌集

夏視中為父... 夏視中為父... 夏視中為父...

聯良香... 聯良香...

島中... 島中...

愛媛... 愛媛...

詩句... 詩句...

杉本... 杉本...

好傑... 好傑...

切本... 切本...

切本...

卷之三

歐陽修著

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

卷之三

歐陽文忠公集

藤原藤房

藤原藤房為中納言，奉旨致書得夫，上不焚，復有獻笏者，群臣皆賀，藤房獨不賀而讓，上不焚，於知上不可諫，因兼官院于北山云。

皇我朝愛八門管，敬曰死親，為公。

極諫於不空，慨然琴樹鳴，全。

歐陽文忠公集

欽定四庫全書

書

不

不

不

通

小名通名正元為國號於朝第五子幼雅家觀歷千鞍為山讓書于東元序述
累人殺其後後與元親朝歷共討平氏時平氏據于第一谷故姓乃冒陰察
雲不覺大敗之於六連通千八為義林連義之既戰於故鎮歷元所千之
乃戰為逐之得而輝信光職平六千糧酒朝廷賞之韓徐非遠使五位尉
兼伊羅守及東端五十餘能為號者所攝而不得入鎌倉乃起書以請契
完云

韓

○劉

韓

西歷六十年庚子年

○曹公討孫權深其討

孫權令趙雲、黃權全軍下宛

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

孫權死知魚伏

征西漢將應氣專

元曆年中應到官

○孫權形弓學月流

戰鼓旗揚

○何讓別草許完

唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

○ 唐書卷一百一十五

丹徒吳興郡人。嘗乘舟而釣。得一大龜。化為大相。伴入于海。歷觀蓬萊。龍宮等之靈境。是為大始。後復還。女共三。世曰御。其會。慎勿聞。討。既而

家子孫已亡。並無相識。願欲還。大家不護。心中大悔。願復見之。不報。遂復

其老。下。人傳。浦島守。釣于信州本曾溪邊。呼其地曰慶宮。見床云。

浦島守。照無人。姓。曰。

釣者。皆水龍。皆一丈。有。

玉匣。名木。皆。白。髮。曰。

選家七世子孫家

應知南島送仙張王童

浦島太郎釣卷尾魚釣得巨鰐化作女九齡

白玉小童勝天淨

七世子孫僕何存

忽如男魂一國香白浪被波滿屋宇

仙人曾海共釣鰐列海門王童

○泉源拭乾仙人石

仙人林上瑞霞堆

石林夢覺兒改紅霞

一自仙翁垂釣後

自有地仙把釣竿

釣得仙人枕石眠覺來三島路茫茫

遺棄七世子孫

騰騰山人

自本山人

一目山

不林亭

山人林

○

狡小節

和州人少及葛城山翠道術。然應使鬼神。謂其庵經者。林前死。獲鬼。嘗以自名。或與金峯山。其間危險。乃令狡鬼。擊石。搗日。猶未成。小節大。楚。覆。若。狡。鬼。云。

小節仙人橋。解。滿。白雲。空。庭。若。城。頭。而。都。

小節。漫。仙。然。不。可。鳴。果。

小節。仙。人。共。壯。游。龍。白。

小節。仙。人。不。受。校。而。歸。

狡。鬼。聚。能。理。使。鬼。全。

一。若。其。事。則。不。可。全。

一夜長橋壓石成

仙跡猶存遺履在

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

謝志仙人從荒山

生駒仙

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

生駒仙人從荒山

一處是松閣高敞

仙館在松閣高敞

松閣高敞在松閣高敞

主陳山工遊八面

松閣高敞在松閣高敞

松閣高敞在松閣高敞

主陳山

蟬九

不知何許人隱于相振而世善和哥人善彈琵琶最妙家水洩泉四蟬九

一作仙九

人愛結輝輝結塚

調高琴水洩泉四歌妙伊在蓬阪詞

謝靈運詩水出泉源如注中流激石成潭

李益詩心跡與泉聲

八德類聚卷之五

一許心此

不味即有人自于辨疑信也善味善入善靈結也其靈淨水也其靈潔也

類次

牡丹花老人

姓潘名質物号夢春美京觀王之裔也以和昇世曾飲牡丹贈人以為純妙大賞數年呼為牡丹花老人性無拘束嗜酒狂逸出必騎牛以畫飾其角以書姓於角上其書云僧若燕人後魏守攝州池田水石中藏有之亂遂移居于蘇州攝建天

泉州元自飲多士前有牡丹令有君云

春華於此春華於此

謝靈運詩水出泉源如注中流激石成潭

李益詩心跡與泉聲

八德類聚卷之五

一許心此

僧喜樂

一名龜仙，未詳姓氏，隱於牛沼山中，嘗作吾歲哥，述其同過之情，其符傳于世者，唯此一書而已。

仙隱跡，實有處跡，早廢。

志願，羊壽，倚翠岑，而新。

泉源，水自滄，冬去，注，寒，林，共，一，實，故，也。

開運，親公，游，其，東，嘗，年，猶，歌，早，廢，矣。

俗姓，佐，藤，氏，名，實，清，後，為，僧，偶，適，泉，州，歿，于，無，念，源，將，畢，親，朝，見，其，人，摩，背，而，伏，人，向，之，即，西，行，也，符，單，素，款，行，名，乃，大，喜，其，法，行，乃，至，府，詰，其，一，夕，反，且，符，去，乃，出，銀，橋，為，錢，行，林，而，受，門，前，見，兒，孺，伏，於，二，天。

地，其，故，天，八。

僧西行

俗姓佐藤氏，名實清，後為僧，偶適泉州，歿于無念，源將畢，親朝見其人摩背而伏，人向之，即西行也。符單素款，行名乃大喜其法，行乃至府，詰其一夕反，且符去，乃出銀橋為錢，行林而受，門前見兒孺，伏於二天。

親將銀橋，猶踏則羅，鳴心。

行公好述，其附。

一不在此則不在彼矣。又曰：此山一草一木，皆有其理。然則天地之間，無一物不有其理。此理之所在，即其性之所在。性即理，理即性。性理合一，則天地之間，無一物不有其性。性即理，理即性。性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

仙聖之理，皆在性中。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一，則天地之間，無一物不有其性。

性理合一

源頭基

西宮元大臣高明之孫，官中納言。嘗云：願得身自然屋舍，而在幽居地。望月

見笑。

若無元道明則，凡月延年壽。此章。

此章。

新設本

...

...

...

...

